

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4674000106
法人名	あかつき居宅介護支援センター
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護 しびの里事業所
訪問調査日	平成 19年 10月 13日
評価確定日	平成 20年 1月 23日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4674000106		
法人名	あかつき居宅介護支援センター		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護 しびの里事業所		
所在地	〒895-1803 鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾2140-1 (電話)0996-59-8805		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成19年10月13日	評価確定日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1000円		

(4) 利用者の概要(平成 19年 9月 10日現在)

利用者人数	7 名	男性 2 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83.8 歳	最低 72 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木原医院、たきかわ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな山間温泉地に旅館を改装した当ホームがある。改装のため、ところどころ段差も残っているが、その事が利用者の注意力につながり足腰が丈夫で骨折等の事例も少ない。昼間は寝たきりの利用者もベットを持ち込み、全員が大広間でそれぞれ、思い思いに語り合い、楽しんでいる。利用者自身がモチベーションを担って「おらが主役」の、出番を作っている。いつでも温泉に入れる環境の中で、居室は寝る時のみという活気ある生活を送っている。管理者・職員は安全管理を第一に考え、見守りを重視し、利用者の今までの生活を出来るだけ継続できるよう、支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事のカロリー計算について指摘を受けて3ヶ月に1回、管理栄養士に点検及び指導を受ける事にした。又、応急処置の実践は消防訓練時に合わせて実施指導の学習会を実施する等、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価は全職員で検討し、改善に向けたサービス向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現在までに3回実施している。医師・家族・地域代表者等にホームの概要・年間計画・外部評価の結果について報告している。今後は行政関係者の参加も要請し、話し合いを行い、サービス向上への取り組みを期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談・苦情処理に対しては職員間で話し合い、対応している。開設当初1年間は色々な苦情に対応する事が多かったが、今は、ほとんど無い状態である。今後も小さな不満や苦情等を記録・対応し、運営に生かされる事を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事には参加している。毎月1回、地域の奉仕作業に参加したり、保育園等のボランティアも受け入れ、交流ができています。自治会への加入や、行政との連携は今後の課題である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『 誇りや自尊心を傷つけない 今までの生活を維持する。 ③役割や出番をつくり、自分が必要とされている実感を。』が事業所の理念として謳っている。		今後は地域密着型サービスとしての役割を目指した内容も検討課題である。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者が何をしたいか欲求を引き出し、理念をベースに物事を考え、実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加している。(夏祭り・神社祭・柿渋抜き祭など) 毎月1回、運営者は元気な利用者と地域の奉仕作業に参加している。保育園などのボランティアも受け入れ、交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価は改善に向けて検討し、実践に生かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、3回実施している。医師・民生委員・家族・地域住民代表者で構成されている。ホームの概要・年間計画・外部評価の結果について報告している。多方面から意見をもらい、話し合いの場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と密に連携を図り、困難事例の解決など相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、現状報告を電話でしている。3ヶ月に1回は行事の写真や利用者のホームでの様子を郵送している。又、毎月の面会時に金銭管理の捺印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、行事参加の折、家族を交え話し合いをする場がある。苦情処理に対しては職員間で話し合い、対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々の利用者にとって心を開く職員がいることを大事にしている。職員が代わる場合、それを見極めて利用者のダメージを防ぐよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医師会や市町村で実施する勉強会には必ず出席し、報告している。		年間研修計画をたて、事業所内研修や関連事業所と共同で行なう研修等について検討することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が年2回ある。管理者・職員は他の施設見学をして違い・良さを見てサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が訪問したり、ホームに来てもらい、利用者が職員やサービスの場に徐々に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	月に1~2回、カラオケ大会をして利用者の役割や出番を作り、必要とされているという実感をもてるように取り組んでいる。一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にして、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を第一に考え、家族からの要望などを聞いて支援している。又、利用者の表情や動きから思いを汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞いて、話し合いながら介護計画を作成している。		地域住民との交流をふまえた園での暮らしを反映した介護計画に期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は最新の情報や気づきをもとに話し合っで見直し、作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて通院・送迎など必要な支援は柔軟に対応している。短期入所も実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医での受診を定期的に行っている。必要に応じて適切な医療が受けられるよう、医療機関との連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期は家族・かかりつけ医・職員と十分話し合いをもって、方針を共有し、対応している。誓約書をとって、最後まで看とるシステムができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理に努め、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの出来る事を大切に食事の準備・片付け等職員と一緒に実施している。利用者の好みに合わせた献立で会話がはずむ楽しい食事がとられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉であり、体調不良以外は見守りで毎日、入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事、出来ない事を見極め役割を持って生活している。(菜園・カラオケ・手踊り・庭掃除)		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	金銭管理のできる利用者は、自由に買い物をして楽しんでいる。いつでも散歩をしたり、畑仕事等している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。動向を把握し、その利用者にあった見守りを重視している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難対策として年に数回訓練している。		年間計画をたて、地域の協力体制作りも望む。運営推進委員会等の議題に災害対策をとりあげ、検討される事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックして確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旅館あとの建物を改造し、2階は居室に、1階は厨房・大広間・浴室等がある。大広間はステージつきで日当たりも良くボランティア手作りの花が温かい雰囲気を作っている。1階から2階への階段にはリフトが取り付けられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋になっている。利用者の希望によりベットを入れたり馴染みのものを取り入れたりして居心地よく過ごせるように支援している。		